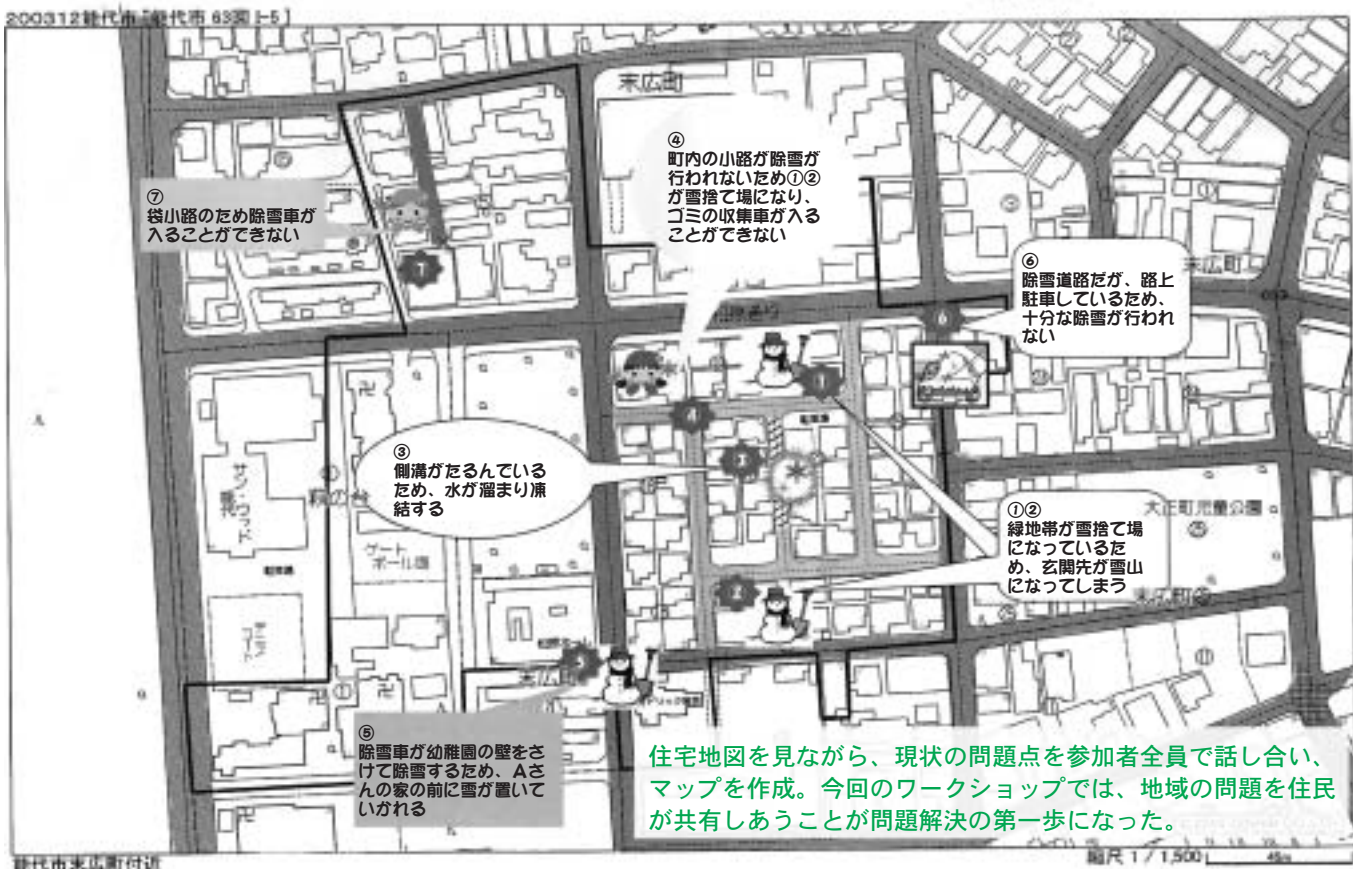


末広町除雪問題点

新雪道路
自治会境界線



住宅地図を見ながら、現状の問題点を参加者全員で話し合い、マップを作成。今回のワークショップでは、地域の問題を住民が共有しあうことが問題解決の第一歩になった。

中心に除雪役員や各組の除雪責任者を決め、連絡網を整備しました。
これにより、除雪車が入るときや排雪作業をするときの連絡が密になり、地域の除排雪がスムーズに進みました。

参加者の声

○行政と住民が率直に話し合う場を重ねるごとに、お互いの立場、考え、仕事の内容などを理解することができ、意志の疎通が図られたことは大きな成果だったと思っています。
○このような自治会活動もいいものだと思います。と思ったのはわたしだけではないはずです。「住民一人ひとりが力を合わせ

て雪に向かう」という意識ができたのではないかと思います。
○何より町内のコミュニティができて、よい方向に進められたことに感謝。
○雪寄せ後の道路のきれいなこと。ちよつと疲れたけど、あのそう快な気分は何とも言えなかった。

今回の取り組みは、除排雪のために新たな補助や制度を作ったわけではありません。市と自治会、または自治会の中で話し合いを重ね、現在の制度を活用して、対応することができました。
こうした地域のつながり、地域と行政の話し合いや協力が、地域の課題解決の糸口になるのではないのでしょうか。



上町自治会 会長 能登祐子さん

末広町第2自治会とともに除排雪モデル地区に指定され、約半年間にわたり参加したワークショップ。地域として満足のいく結果を出せたことに安どしています。

ワークショップでは、現状の地域の問題点を住民同士が話し合い、共有することに多くの時間をかけました。始めのころは「現状把握に時間をかけすぎではないか」という疑問が常にありましたが、自治会での話し合いの機会を重ねていくうちに、徐々に町内に助け合いの心が芽生えていったように思います。

多くの地域住民が参加した排雪作業では、これまで一度も話したことがない人、話し合いの機会を作っても参加しなかった人まで、延べ80人の住民が参加してくれたことは感動の一言でした。その光景は、幼いころに目にしたものと同じ、「助け合いの心」そのものであり、現在の社会が忘れてきている大切なものを再発見できたように思います。

みんなが明るく、いきいきと暮らすことができるまちになるまで、がんばっていききたいと思います。